

# 蔬菜園の周圍境界を利用して

東京女子高等師範學校教諭

大 岩 金

家庭蔬菜園も、隣組共同蔬菜園も次第に整つて來て、もう此頃では一しきり夏の果菜類の收穫が終つて、大根、こかぶ等の菘類や、收穫に近い甘藷なぎが氣持よく成長してゐる。

今回は菜園の周圍を利用して更に畑を美化して見よう。

一、豌豆、蠶豆を播くことは前月號に述べたのでこゝでは省略する。

## 二、草 莓

梅雨期頃から伸びた匍匐枝で親株に近い二三節を取り、一節毎に切り離して株間七寸にして一株づゝ植付ける。あまり深植にならないやうに注意する。そして冬の乾燥、除霜を兼ねて年末になつたら藁、又は炭俵をほごして株の周圍に敷いてやるこよい。

## 三、ニ ラ

ニラは香氣の高い蔬菜で人により大變好嫌ひがあるが春から秋末まで引續き收穫が出来るので重寶である。

株分けは今しても、來春早々しても差支ないが年内にし

ておけば來年早々に收穫が出来る。

葉が硬ばつて食へ難くなつたならば刈りこつて掘り上げ適當に株分し、根も長すぎるものは適當に切りつめて差支へない。是を株間七八寸おきに一株づゝ植込んでおけばよい。基肥として堆肥があれば結構であるがなければ灰丈入れてもよい。

次は草花を用ひる事にして二、三述べらる。

## 四、アルメリア

十月末から十一月にかけて是まで植ゑてあつた株を掘り起す。この根は主根が發達してゐて、支根は極めて貧弱であるがこの時期ならば一本の太い主根を數箇にさいて、わづかばかりの根がついてゐる丈でも殆ど活著しないのはないからさほご廣くない周圍には數株あれば足りる。花屋の店頭には毎年春の開花前にならないと出さないが、その頃では株分には到底堪へない。植替でさへもあまり望ましくない。それ故株分は是非この期にしてほしいものである。用途としては縁植のみならず鉢植にしても開花期が大變永

くて可愛らしい花を咲かせるので充分觀賞の價値がある。

#### 五、モツスフロックス（ハナシバ）

名の示すやうに細い葉が莖に密生しそれが地上に長く伸びる。一見した所芝の感じがする。春ぼたん色、薄色の花が葉を覆ふて開いた時は野のれんげ草の花盛りのやうで大變美しい。花の後も亦緑として長く眺められ、年々挿しかへた鉢植なごも前者同様充分觀賞の價値がある。

挿木をするには伸びた匍匐枝を三四寸位の長さで切り、株間も三寸位にして約半分を地中に埋めておけばよい。極めて發根し易いものであるから切つたまゝで只上下を間違へないやうにすればよい。それ故一株あれば容易にかなりな面積に擴げる事が出来る。

#### 六、スケートビー

共同蔬菜園の境界用としては少し丈の高すぎる感じもするが目障りになる繩張りや、枯枝等とは趣をすっかり異にするのであげて見た。栽培法はえんごう同様でよい。尙年内の手入としては發芽後本葉が數枚出た頃に一回液肥をやや、寒地にあつては笹付の竹か、葉のついた枯枝を霜除きして立てゝやる結構である。

#### 七、ツルバラ又は姫性のバラ

少ししつかりとした境界を望む所には適當かと思ふ。

ツルバラで垣根様にするまでには一年では少し無理な感

じがする。三年目位になるに相當に枝數も多く、長さもよくなる。

姫性の方では丈は少し一年では低いが花は少しは見られるので初年は少し間隔をつめておき、後に所々間引き他に移せばよい。

繁殖はいづれも挿木でこの十一月頃剪定をした時の枝を挿しておけばよい。

挿穂として適當な枝といふのは、今春伸びた枝で四、五寸のものに數箇以上芽のある、よく充實したものを選び、上は芽の直上、下は芽の直下を斜に切る。是を約半分位地に挿すのである。尙丁寧にする時は赤土で小さい玉を作り、保水と黴菌の侵入を防ぐために切口を包み、土中に埋める時は一層よく活著する。是は三尺に一本位の割合に用意すればよいのであるが豫備のため少し多數に挿しておきたい。尙直ちに境界に挿すよりも今年是他のもので代用し、日照のよい適當な場所に挿木をしておいて來秋になつて本植するのの一策である。この場合は株間五寸位にして並べておけばよい。